4/21/2003

＊キリスト教学特殊講義＊＊＊＊＊　S. Ashina

＜2003年度・講義予定＞

オリエンテーションー「宗教と科学」問題群2ー　4/14

第三章：形而上学再考

3－1：問題　4/21

3－2：形而上学とキリスト教思想－ハイデッガー、パネンベルクー　4/28

3－3：「宗教と科学」問題群と形而上学－ギルキーー　5/19

3－4：形而上学の可能性－ホワイトヘッドとプロセス神学－　5/26, 6/9,16,30

第四章：精神と宗教

4－1：精神とはードイツ観念論とキリスト教思想－

4－2：生の次元論と精神－新しい次元の創発性の理論化に向けて

4－3：社会システム論とパラドックスールーマンー

EXKURS1：「宗教的多元性－対話－平和－グローバル化」　5/12

・「宗教間対話と平和思想の構築－現状と課題－」

・「キリスト教思想の再構築とアジアの宗教的多元性」

・「多元性・グローバル化」「民族主義と平和」

EXKURS2：「宗教と科学－宗教学の科学性、生命、環境－」　6/2

・「科学としての宗教学」

・「宗教改革と科学」

・「生命倫理の新しい動向」

・「終末論とエコロジー・エコノミー」

＜前回＞

「宗教と科学」問題群について、これまでの講義の経過と今年度の方向性

1．「宗教と科学」の関係性をキリスト教思想において論じる際の方法論

文化（人間の自然理解・自然との関わり、とくに言語化されたもの）を通して、自然へ。文化の神学からの、あるいはその範囲における自然の神学

2．自然神学、「宗教と科学」の関係論の基礎論

自然神学の歴史的展開とその意味づけ・一般化

世俗的知とキリスト教思想とのコミュニケーション合理性の探究としての自然神学（一般化された）と、その歴史的で特殊な展開としての自然神学（通常の・狭義の）

3．宗教と科学の関係についての各論

宗教言語と科学言語との比較（相違と類似）：隠喩、モデル

言語論と実在論：言語の指示の問題、真理の問題

宗教的実在論と科学的実在論

4.「宗教と科学」の関係性の実践的パースペクティブ
倫理的諸問題：生命の神学（エコロジーの神学、医療と健康の神学、
生命科学の神学、情報の神学）
5.「宗教と科学」の関係の歴史的展開、思想史的研究
古代：学としての神学の成立、古代ギリシャ神学の三分肢体系とキリスト論
宗教－呪術－科学の三分法
中世：中世科学とキリスト教・イスラーム、宗教改革、聖書解釈と科学（天文学論争）
近代：17世紀のニュートン主義の成立と展開およびそのイデオロギー的意義、理神論、進化論の自然神学、科学者集団の自立
現代：相対論と量子力学、科学的宇宙論と統一理論、遺伝子・脳、精神分析

第三章：形而上学再考

3－1：問題
3－2：形而上学とキリスト教思想－ハイデッガー、パネンベルク－
3－3：「宗教と科学」問題群と形而上学－ギルキー－
3－4：形而上学の可能性－ホワイトヘッドとプロセス神学－

３－１：問題

1. 問題の確認：なぜ、いかなる意味で、形而上学なのか
2.「宗教と科学」の関係性を問う枠組みとしての「生」の問題　→　哲学！　哲学？
宗教も科学も生の現実に基づく人間の営みであり、神学も科学も生の現実に属する何者かを、それぞれの認識対象の一部としているから。

「科学研究と神学との接点は、科学と神学の両者における哲学的要素の中にある。したがって、神学の特殊科学に対する関係は神学と哲学の問題になる」（Tillich[1951], p.18）

3. 宗教と科学とを視野に入れた生についての議論として、ティリッヒの「生の次元論」を出発点あるいは議論のモデルとする。
・ティリッヒのこの議論が、19世紀のドイツの自然哲学、進化論、精神分析学などの諸理論を組み込んで展開されていること。またホワイトヘッド、テヤール・ド・シャルダンなども視野に入れていること。関係諸理論の集積点
・病、治療などの具体的な諸問題を事例として展開されていること。
・宗教言語と問題など、現代の宗教と科学の関係論の中心的テーマを含んでいること。

「宗教、科学、そして哲学の対立の時期は原理的には過ぎ去った。もちろん、より古い思想時代に逆戻りしてまだ生きているような人も存在してはいるが。我々は寛容の

時代に生きている。しかしそれは満足のゆくものではない。なぜなら、それはお互いを認め合ってはいても、統一することはないからである。……我々は常に再統合の時期に向かって努力している。……協力は今日可能な事柄である。これは多くの場所において始められており、これがますます力をまして現実のものとなるという希望を私は表明したい」(Tillich[1963b], p.172)

「人間イエスに適用されたこの神話論的象徴(普遍的治癒者の象徴。論者補足)がきわめて鮮明に示しているのは、宗教的なものと医学的なものとの統一性なのである。もし救済が癒しの意味で理解されるとするならば、宗教的なものと医学的なものとの間には対立ではなく、きわめて密接な関わりが存在しているのである」(Tillich[1961],p.173)

4. 方法論的出発点:生の現象学と生の再記述のためのメタファーとしての次元

・生:1. 本質と実存の混合(人間の現実性、人間論)

2. 構造論(構造と構造の生成・現実化)→ 次元論

3. 生成論・運動論、可能性の現実化

(弁証法的運動:自己同一、自己変化、自己帰還

三つの機能:自己統一、自己創造、自己超越)

・次元論の二つの条件:諸次元の区別と相互連関(統一性)

二元論と還元主義ではなく

病い・癒し・健康など生の現実から

「これらの考察から、<レベル>という隠喩(そして<階層>や<層>といった類似の隠喩) が生プロセスのすべての記述から排除されねばならないという結論が生じる。わたしが示唆したいと思うのは、<レベル>隠喩を<次元>隠喩 ── これは、<領域>や<度合い>といった相関概念と結びついている ── で置き換えることなのである。しかしながら、重要なことは、一つの隠喩を別の隠喩に置き換えることではなく、このような置き換えが表現している現実の見方の転換なのである。」(Tillich[1963a],p.15)

5. 多次元的統一体としての生(the multidimensional unity of life)

物質の次元、生命の次元、心の次元、精神と歴史の次元

宗教、文化、道徳は、精神と歴史の次元における生の運動の三つのベクトルに、あるいは三つの機能に対応づけられる。

「宗教と科学」の関係性をこの議論の枠組みで具体的に論じること

6. 問題:この生の次元論をいかに理論的展開するのか

諸次元間の関係あるいは次元の現実化について

進化論、創発性、自己組織化

「次元の現実化は宇宙の歴史の内における歴史的出来事である。」(Tillich[1963a],p.26)

「有機的生命の起源の問いはより重大である。ここにおいて二つの観点、つまりアリストテレ

ス的観点と進化論的観点とが対立している。前者はデュナミス、可能態という用語によって種の永遠性を強調するが、後者はエネルゲイア、現実態において種の出現の諸条件を強調する。しかし、次のように定式化するならば、こうした相違が矛盾を生み出す必要はないことが明らかになる。すなわち、有機的なものの次元は本質的に無機的なものの次元に現在している、その現実的な出現は生物学や生化学によって記述される諸条件に依存している、と」(ibid., p.20)。「生の新しい次元の出現は条件づける次元における諸条件の布置(constellation)に依存している」(ibid.,p.25)

7．この全体的な構図は形而上学となる。

・宗教と科学の接点としての哲学

「自然の宗教哲学」と名付ける

・自然学から形而上学へ（アリストテレスのプログラム）

経験的知の首尾一貫した統合の試み

ホワイトヘッドの思弁哲学

8．Alfred North Whitehead, Process and Reality. An eaasy in cosmology,

The Free Press　1957 (1929)　Gifford lectures 1927-28

Speculative Philosophy is the endeavour to frame a coherent, logical, necessary system of general ideas in terms of which every element of our experience can be interpreted. (5)

9．西田幾多郎　『善の研究』序　（岩波文庫）

「純粋経験を唯一の実在としてすべての実在を説明して見たいといふは、余が大分前から有つて居た考であつた」(7)

純粋経験／実在／善／宗教

＜議論の順序の確認＞

3－2：形而上学をめぐる問題状況

・分析哲学

・カントからハイデッガー

人間存在にとっての不可避的な問い

・パネンベルク

神と形而上学

・レヴィナス

存在論ではなく、倫理へ

3－3：「宗教と科学」の問題との連関における形而上学

ギルキー：ホワイトヘッドあるいはティリッヒ

３－４：具体化の試み、モデルケースとして

ホワイトヘッド

プロセス神学

古典的キリスト教教義が採用としたのとは別の形而上学

＜参考文献＞

芦名定道　「ティリッヒ　生の次元論と科学の問題」、『ティリッヒ研究』創刊号
現代キリスト教思想研究会　2000年
「ティリッヒとアインシュタイン」、『ティリッヒ研究』第５号 2002年
「Ｐ．ティリッヒと科学論の問題」、『キリスト教文化研究所紀要』東北学院大学
キリスト教文化研究所　第２０号　2002年
「隠喩・モデル・多元性－ティリッヒから宗教言語論へ－」、『ティリッヒ研究』第６号
2003年

Paul Tillich

1951: *Systamatic Theology vol.1*, The Univ. of Chicago Press

1961: The Meaning of Health, in:Perry LeFevre (ed.), *The Meaning of Health. Essays in Existentialism, Psychoanalysis, and Religion*, Exploration Press 1984

1963a: *Systematic Theology vol.3*, The Univ. of Chicago Press

1963b: Religion, Science, and Philosophy, in:J. Mark Thomas (ed.), *The Spiritual Situation in Our Technical Society*. Paul Tillich, Mercer University Press 1988